

平成21年3月期 第1四半期決算短信

平成20年8月4日

上場会社名 参天製薬株式会社
 コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 計画・統制本部長 (氏名) 納塚 善宏
 四半期報告書提出予定日 平成20年8月5日

上場取引所 東大

TEL 06-6321-7007

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第1四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	25,462		103		131		136	
20年3月期第1四半期	26,524	2.0	5,915	4.6	6,220	1.5	3,888	5.9

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭		円 銭	
21年3月期第1四半期	1.61		1.61	
20年3月期第1四半期	44.81		44.72	

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
21年3月期第1四半期	153,198		124,991		81.5		1,468.96	
20年3月期	156,547		127,118		81.1		1,494.48	

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 124,871百万円 20年3月期 126,998百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期		40.00		40.00	80.00
21年3月期					
21年3月期(予想)		40.00		40.00	80.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
第2四半期連結累計期間	52,000		4,200		4,700		3,100		36.48	
通期	104,000	0.6	15,100	25.9	15,600	24.6	9,800	22.5	115.32	

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
 会計基準等の改正に伴う変更 有
 以外の変更 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)
 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第1四半期 86,896,803株 20年3月期 86,866,703株
 期末自己株式数 21年3月期第1四半期 1,890,008株 20年3月期 1,888,743株
 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第1四半期 84,997,222株 20年3月期第1四半期 86,777,172株

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- (1) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々なリスク要因により大きく異なる可能性があります。
- (2) 平成20年5月8日に公表した業績予想数値につきまして、平成20年6月10日に第2四半期連結累計期間および通期業績予想の変更をしています。修正内容につきましては、4ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
- (3) 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は薬価改定の影響はありましたが、緑内障治療剤、角膜疾患治療剤ならびに抗アレルギー点眼剤などの伸長により、前年同期と比べ若干拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は欧米・アジアともに総じて堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は疲れ目用、コンタクト用ならびにアレルギー用目薬などが伸長し、前年同期と比べわずかに拡大しました。

このような状況下、当第1四半期の業績は次のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	前年同期	当第1四半期	前年同期増減率
売上高	26,524	25,462	4.0%
営業利益(又は営業損失())	5,915	103	-
経常利益	6,220	131	97.9%
四半期純利益	3,888	136	96.5%

当第1四半期の売上の状況

販売部門別の売上高は次のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医療用医薬品	20,385	2.2%	3,412	7.2%	23,797	3.0%
うち眼科薬	17,770	3.1%	3,403	5.7%	21,174	3.5%
うち抗リウマチ薬	2,554	3.8%	-	-	2,554	1.1%
うちその他医薬品	61	17.4%	8	71.0%	69	22.1%
一般用医薬品	1,285	1.4%	3	37.5%	1,288	1.5%
医療機器	91	22.9%	-	-	91	29.6%
その他	51	65.9%	233	48.4%	284	52.7%
合計	21,813	2.5%	3,649	11.9%	25,462	4.0%

[医療用医薬品]

当第1四半期の医療用医薬品の売上高は、前年同期と比べ3.0%減少し237億9千7百万円となりました。

(眼科薬)

<国内>

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を引き続き実施しました。角膜疾患治療剤の「ヒアレイン点眼液」は、患者さんや医療現場に対するドライアイの疾患啓発活動などにより順調な伸びを示しましたが、合成抗菌点眼剤の「クラビット点眼液」、緑内障治療剤の「レスキュラ点眼液」や「チモプトール点眼液」などは、薬価改定や競合の影響もあり減少しました。その結果、国内医療用眼科薬の売上高は前年同期と比べ3.1%減少の177億7千万円となりました。

< 海外 >

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ5.7%減少の34億3百万円となりました。欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力し、北欧・西欧などで伸長しましたが、ロシアなどで減少し売上高は横ばいとなりました。米国向けでは出荷のタイミングもあり売上高が若干増加しました。アジアでは、前年同期の供給のタイミングによる韓国・中国への一時的な出荷増が当第1四半期ではないため、売上高は前年同期と比べ減少しました。

(抗リウマチ薬)

「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠2mg」は、関節リウマチ治療ガイドラインで、強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、抗リウマチ薬の売上高は前年同期と比べ1.1%増加の25億5千4百万円となりました。

[一般用医薬品]

一般用医薬品部門の売上高は、目の疲れ・かすみ・爽快用の目薬を中心に引き続き販売促進に注力した結果、前年同期と比べ1.5%増加の12億8千8百万円となりました。

[医療機器]

国内の白内障手術件数は若干増加しましたが、競争の激化に伴い既存の眼内レンズの売上高は減少しました。一方、高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズの「エタニティー」の本格的な販売を7月に開始しましたが、第1四半期では新製品の寄与がほとんどないため、医療機器全体では前年同期と比べ29.6%減少の9千1百万円となりました。

[その他]

米国向け耳科用合成抗菌剤の受託製造がなくなり、売上高は前年同期と比べ52.7%減少の2億8千4百万円となりました。

当第1四半期の利益の状況

売上原価では薬価下落の影響などにより原価率がアップし、利益にマイナスの影響を与えました。研究開発費では、6月にマキユサイト社とシロリムス製剤（網膜疾患領域、開発コードDE-109）に関する日本およびアジア諸国での眼疾患を対象にした開発および販売実施権の契約締結を行い、それに伴う一時金として50万ドルを計上したことなどにより、前年同期と比べ170.2%増加の84億8千2百万円となりました。その結果、営業損失は1億3百万円となりました。経常利益は前年同期と比べ97.9%減少の1億3千1百万円となりました。四半期純利益は前年同期と比べ96.5%減少の1億3千6百万円となりました。

研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジン製剤DE-085（一般名：タフルプロスト）は日本および欧州で既に製造販売承認申請を実施済みですが、欧州では2008年4月のデンマークを皮切りに現在6カ国において承認が得られ、今後も申請各国にて順次承認が得られる予定です。一方、米国においては今後の事業化の検討を踏まえたうえ、申請の是非を決定します。アンジオテンシン受容体拮抗剤のDE-092（一般名：オルメサルタン）は、日本および米国での臨床第Ⅲ相試験の結果、用量依存性が確認できなかったため臨床試験を一時中断していましたが、変更した製剤での臨床第Ⅲ相パイロット試験を実施中です。緑内障および高眼圧症を適応症とするROCK阻害剤のDE-104（一般名：未定）は、日本と米国で臨床第Ⅲ相試験を実施中です。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、主にドライアイに伴う角結膜上皮障害治療剤のDE-089（一般名：ジクアホソル・ナトリウム）は、日本での製造販売承認申請を2008年5月に行いました。DE-101（一般名：リボグリタゾン）は日本と米国において臨床第 相試験を実施中です。

遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105（一般名：未定）は、米国において臨床第 相試験を開始しました。アレルギー性結膜炎を適応症とするホスホジエステラーゼ4阻害剤のDE-103（一般名：未定）は、日本で臨床第 相試験を実施中です。

網膜領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102（一般名：未定）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性検証試験（臨床第 相 / 第 相試験）を日本で実施中です。

滲出型加齢黄斑変性と糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）の、日本を含むアジアでの眼科疾患を対象とした開発および販売実施権を、2008年5月にマキュサイト社から取得しました。

また、当社が株式会社Argenesに国内開発権を許諾している、関節リウマチを適応症とするDE-098（一般名：未定）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性検証試験（臨床第 相 / 第 相試験）を欧州と日本で実施中です。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の資産は、前期末に比べ33億4千9百万円減少しました。受取手形及び売掛金の増加、株価上昇に伴う投資有価証券の評価増等はありませんでしたが、法人税等や配当金の支払いによる現金及び預金の減少などが要因です。

負債は、前期末に比べ12億2千2百万円減少しました。未払金の増加はありませんでしたが、未払法人税等の支払い、賞与引当金の取崩しなどによるものです。

純資産は、前期末に比べ21億2千7百万円減少しました。これは主に、配当金の支払いによるものです。

これらの結果、自己資本比率は前期に比べ0.4ポイント増加し、81.5%となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、以下のとおりです。

当第1四半期連結会計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、37億8千2百万円の支出となりました。これは主に、法人税等の支払いによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、29億1千5百万円の支出となりました。これは主に、海外子会社における外貨定期預金の預入れによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、32億2百万円の支出となりました。これは主に、配当金の支払いによるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の四半期末残高は、前連結会計年度と比べ95億7千3百万円減少し、420億9千6百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年5月8日に公表した業績数値につきまして、6月10日に第2四半期連結累計期間および通期業績予想の変更をしています。修正の理由は、マキュサイト社とのシロリムス製剤に関する日本およびアジア諸国での眼疾患を対象にした開発および販売実施権の契約締結に伴い、50万ドルを計上したため、営業利益、経常利益および当期純利益に影響を及ぼしたことによります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

簡便な会計処理

該当事項はありません。

四半期連結財務諸表作成に特有の会計処理
該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

四半期財務諸表に関する会計基準

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 平成19年3月14日)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号 平成19年3月14日)を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

重要な資産の評価基準及び評価方法の変更

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっていましたが、当第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算出しています。

これによる損益に与える影響は軽微です。

「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

当第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っています。

これにより、営業損失は230百万円減少し、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ227百万円、四半期純利益は231百万円増加しています。

なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しています。

リース取引に関する会計基準の適用

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっていましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))および「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、当第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっています。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

ただし、当第1四半期連結会計期間において新たな所有権移転外ファイナンス・リース取引が発生しなかったため、損益に与える影響はありません。なお、リース取引開始日がリース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しています。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,084	35,483
受取手形及び売掛金	37,301	35,614
有価証券	15,892	15,868
商品	2,877	3,338
製品	5,352	5,227
半製品	1,114	821
原材料	1,768	1,674
仕掛品	232	259
繰延税金資産	897	1,699
その他	2,968	2,769
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	96,488	102,754
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,258	39,859
減価償却累計額及び減損損失累計額	25,045	24,699
建物及び構築物(純額)	16,212	15,160
機械装置及び運搬具	11,448	11,083
減価償却累計額及び減損損失累計額	8,663	8,426
機械装置及び運搬具(純額)	2,785	2,656
土地	8,571	8,558
建設仮勘定	838	1,879
その他	10,636	10,532
減価償却累計額及び減損損失累計額	9,107	8,938
その他(純額)	1,528	1,594
有形固定資産合計	29,936	29,848
無形固定資産		
のれん	-	300
ソフトウェア	1,490	1,602
その他	309	330
無形固定資産合計	1,800	2,233
投資その他の資産		
投資有価証券	18,287	16,949
繰延税金資産	4,321	1,822
その他	2,363	2,694
投資その他の資産合計	24,972	21,466
固定資産合計	56,709	53,548
繰延資産	-	244
資産合計	153,198	156,547

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,056	5,633
1年内返済予定の長期借入金	5,168	5,168
未払金	9,903	7,690
未払法人税等	1,434	4,323
賞与引当金	1,353	2,612
その他の引当金	84	74
その他	2,161	1,057
流動負債合計	25,163	26,561
固定負債		
長期借入金	68	110
繰延税金負債	17	17
退職給付引当金	2,015	1,815
役員退職慰労引当金	491	487
その他	450	437
固定負債合計	3,043	2,867
負債合計	28,207	29,429
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,440	6,418
資本剰余金	7,135	7,113
利益剰余金	114,743	117,786
自己株式	4,924	4,920
株主資本合計	123,395	126,398
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,989	2,273
為替換算調整勘定	1,513	1,673
評価・換算差額等合計	1,475	600
新株予約権	119	119
純資産合計	124,991	127,118
負債純資産合計	153,198	156,547

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
売上高	25,462
売上原価	9,142
売上総利益	16,320
販売費及び一般管理費	16,424
営業損失()	103
営業外収益	
受取利息	35
受取配当金	209
その他	106
営業外収益合計	351
営業外費用	
支払利息	23
為替差損	74
その他	18
営業外費用合計	115
経常利益	131
特別利益	
特別利益合計	-
特別損失	
固定資産売却損	8
施設利用権評価損	15
特別損失合計	23
税金等調整前四半期純利益	107
法人税、住民税及び事業税	1,366
法人税等調整額	1,395
法人税等合計	28
四半期純利益	136

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第1四半期連結累計期間	
(自 平成20年4月1日	
至 平成20年6月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	107
減価償却費	1,109
退職給付引当金の増減額(は減少)	157
受取利息及び受取配当金	245
支払利息	23
売上債権の増減額(は増加)	1,644
たな卸資産の増減額(は増加)	15
仕入債務の増減額(は減少)	558
その他	1,265
小計	198
利息及び配当金の受取額	243
利息の支払額	7
法人税等の支払額	4,216
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,782
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	2,138
固定資産の取得による支出	625
投資有価証券の取得による支出	151
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,915
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	42
配当金の支払額	3,201
その他	41
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,202
現金及び現金同等物に係る換算差額	327
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	9,573
現金及び現金同等物の期首残高	51,669
現金及び現金同等物の四半期末残高	42,096

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 平成19年3月14日)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号 平成19年3月14日)を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益および全セグメントの資産の金額の合計額に占める「医薬品の製造・販売を中心とする医薬品事業」の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しています。

b. 所在地別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

	日本 (百万円)	欧州 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	22,761	2,522	179	25,462	-	25,462
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	522	489	808	1,820	(1,820)	-
計	23,283	3,012	987	27,283	(1,820)	25,462
営業利益 (又は営業損失())	474	80	64	490	(594)	103

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっています。

2 本邦以外の区分に属する主な国または地域

(1) 欧州.....フィンランド、ドイツ、スウェーデン

(2) その他の地域.....アメリカ、中国、韓国、台湾

3 【定性的情報・財務諸表等】の4. その他に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用しています。

これにより、従来の方法によった場合に比べて、欧州では営業利益が1百万円多く計上され、その他の地域では営業損失が228百万円少なく計上されています。

c. 海外売上高

当第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	欧州	北米	アジア	計
海外売上高(百万円)	2,243	255	1,149	3,649
連結売上高(百万円)	-	-	-	25,462
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	8.8	1.0	4.5	14.3

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっています。

2 各区分に属する主な国または地域

(1) 欧州.....フィンランド、ロシア、スウェーデン、ドイツ、ノルウェー

(2) 北米.....アメリカ

(3) アジア.....韓国、中国、ベトナム、台湾

3 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高です。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

科目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日)
	金額(百万円)
売上高	26,524
売上原価	9,423
売上総利益	17,100
販売費及び一般管理費	11,185
営業利益	5,915
営業外収益	371
受取利息	44
受取配当金	156
その他	170
営業外費用	66
支払利息	22
のれん償却費	31
その他	12
経常利益	6,220
特別利益	-
特別損失	29
固定資産処分損	29
税金等調整前四半期純利益	6,191
法人税、住民税及び事業税	1,692
法人税等調整額	610
四半期純利益	3,888

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日)
区分	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	6,191
減価償却費	1,131
退職給付引当金の増加額	107
受取利息及び受取配当金	200
支払利息	22
売上債権の増加額	1,931
たな卸資産の減少額	417
仕入債務の減少額	907
その他	308
小計	4,522
利息及び配当金の受取額	203
利息の支払額	9
保険満期受取金収入	133
法人税等の支払額	3,645
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,203
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金等の預入による支出	9
定期預金等の払戻による収入	663
有価証券の売却による収入	1,000
固定資産の取得による支出	896
投資有価証券の取得による支出	406
投資有価証券の売却による収入	382
その他	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	735
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	42
配当金の支払額	2,898
その他	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,936
現金及び現金同等物に係る換算差額	233
現金及び現金同等物の増加額(又は減少額)	763
現金及び現金同等物の期首残高	49,841
現金及び現金同等物の四半期末残高	49,077

(3) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間(自平成19年4月1日至平成19年6月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益および全セグメントの資産の金額の合計額に占める「医薬品の製造・販売を中心とする医薬品事業」の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しています。

b. 所在地別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間(自平成19年4月1日至平成19年6月30日)

	日本 (百万円)	欧州 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	23,746	2,656	121	26,524	-	26,524
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	390	468	767	1,626	(1,626)	-
計	24,137	3,124	888	28,150	(1,626)	26,524
営業利益 (又は営業損失())	6,399	305	237	6,467	(551)	5,915

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっています。

2 本邦以外の区分に属する主な国または地域

(1) 欧州.....フィンランド、ドイツ、スウェーデン

(2) その他の地域.....アメリカ、中国、韓国、台湾

c. 海外売上高

前第1四半期連結累計期間(自平成19年4月1日至平成19年6月30日)

	欧州	北米	アジア	計
海外売上高(百万円)	2,251	386	1,505	4,143
連結売上高(百万円)	-	-	-	26,524
連結売上高に占める海外売上高 の割合(%)	8.5	1.4	5.7	15.6

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっています。

2 各区分に属する主な国または地域

(1) 欧州.....フィンランド、ロシア、スウェーデン、ドイツ、ノルウェー

(2) 北米.....アメリカ、カナダ

(3) アジア.....韓国、中国、ベトナム、台湾

3 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高です。